

合志マンガミュージアムの これまでとこれから



「合志マンガミュージアム」の外観。
内部は熊本県産木材がふんだんに使用されている

ミュージアム概要

- * 三つの役割→ライブラリー・ミュージアム・フォーラム機能
- * 第三世代のミュージアム→地域密着型
- * ヨーニンマンミュージアム→日本のオリジナル文化「妖怪」と「忍者」のマンガが充実
- * 合志マンガ義塾→まもなく100回
- * 紙のマンガである刊本（雑誌・単行本）を遺す→初出優先

これまでの歩み・学んだこと

「夢は願い続ければ叶う」の一念で、設立目指す



合志マンガミュージアムの設立まで

ものごころついた頃からマンガを読み続けてきた橋本博氏は、現在も収集し、評論を書き、世界にマンガの面白さを伝えたいと情報を発信し、塾講師時代にはマンガを使った授業もしてきた。そんな橋本氏の所には膨大な数のマンガが集まってくる。そんな中で、一緒にマンガを研究しよう・マンガのアーカイブを作ろう・各地にマンガミュージアムを作ろう、マンガの力で地域おこしをしようという夢を持つ人たちが集まり、2011年「NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト」を発足。2016年熊本地震では被災者に移動式図書館でマンガを届けた。2017年「合志マンガミュージアム」を設立した。

「教養としてのマンガ」

橋本 博 著（扶桑社）

マンガのこと、合志マンガミュージアム設立のこと、橋本氏のことをもっと知りたい方はこの本がおすすめです。パレア情報ライブラリーや県立図書館にもあります。（熊日出版文化賞受賞）

マンガミュージアムのこれから

「マンガ県くまもと」を 盛り立てよう！

マンガは自分を、地域を、日本を、
そして世界を元気にする

クール・ジャパンとして海外からの人気を集める「アニメ」や「マンガ」は、大切な観光資源。県内企業や自治体、新聞社、大学の連携・協力で、「マンガ県くまもと」を盛り立てていこう。

教育の場で

- * 合志市内の小・中学校の図書館にマンガ配本。
- * 農民学校「合志義塾」を描いたマンガ「カタルパの樹」は、郷土学習として活用されている。
- * 多くの県内大学でマンガが学問として研究されている。

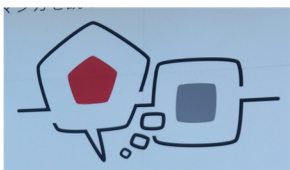
福祉の場で

- * 子どもたちだけでなく高齢者も元気が出る。
- * 思い出の本を探したり、読んで、語り合っ、元気になる。
- * ラジオ体操後の早朝開館「モーニングミュージアム」を構想中。

日本のマンガは世界で注目されている。
紙の本は貴重な財産として次世代に引き継いでいかなければならない。

マンガミュージアムミニ情報

ロゴマーク



所在地の「合志（こうし）」を数字の「5」「4」と読ませて、五角形と四角形のマンガの吹き出しで表現。さすがマンガミュージアム

「マンガ県くまもと」



ゆかりのマンガが並ぶ。勿論尾田栄一郎氏の「ワンピース」も揃う

トイレ



便器の蓋裏に

「ふたを閉めて流す事に
一片の悔いなし！」

基本情報

住所：合志市御代志1661-271
開館時間：10:00~18:00
休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）
毎月末日（土・日・祝を除く）
年末年始
入館料：必要（小学生以下は無料）
問い合わせ：電話・FAX 096(273)6766